



特定非営利活動法人(NPO法人)

セルフメディケーション推進協議会会報

Self-medication advocacy council

2007年3月1日 No.12

さらなるセルフメディケーションの推進に向けて ～第27回常任理事会・新春役員懇親会 開催さる

開催日：2007年1月22日(月) 10:00～15:30

会場：六本木・はあといん乃木坂 会議室

新しい年2007年の事業計画を推進するSMAC「執行組織会議」の報告と、10月に開催される第5回日本セルフメディケーション学会の骨組み及び実行委員会立ち上げの検討・承認、第5回特別セミナー計画の検討・承認等を主議題とした第27回常任理事会及び新春役員懇親会が去る1月22日、六本木の「はあといん乃木坂」で開催された。

午前中に行われた常任理事会では、まず学会について森陽学会担当理事から、本年10月13日(土)・14日(日)の両日、船橋市・日本大学薬学部において、安川憲実行委員長(同学・教授)の下で開催される旨報告がなされ、承認された。(概要・別掲)

また、特別セミナーについては、6月11日(月) 東京・京王プラザホテルにおいて、通常総会と併催の形で、村田正弘実行委員長(常任理事)の下で開催されることが承認された。

この他、中村健学術担当理事(常任理事)から平成18年度プロジェクト研究活動の進捗報告、安田俊道会長補佐(常任理事)から会員動向・予算の執行状況等の報告があった。

引続き午後からは理事・監事の方々加わり、新春役員懇親会が会費制で開催された。この場では、池田会長ならびに各担当理事により常任理事会からの報告が行われた後、全出席者から今後のSMAC活動への抱負・要望等に関するショート・スピーチが行われた。

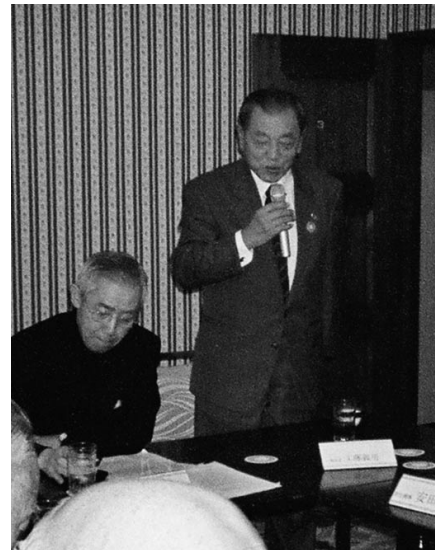
今年の懇親会では、事前に村田執行・組織委員長から全役員に対して、「さらなるセルフメディケーションの推進に向けて」小文の寄稿が要請され、現時点までに池田会長以下10人の役員の方々から玉稿が寄せられている。本誌では、SMACの評価が本格的に問われる新年の冒頭に当って、舵取りを担うSMAC幹部の方々、どのような考えをお持ちか、2回に分けて特集することとしたい。(一部はダイジェストであり、文責は編集部にあります。)

池田義雄会長：「さらなるセルフメディケーションの推進に向けて」

安部内閣が発足した今、比較的安定した国会運営の中、国民の医療をどう維持していくのかが問われています。

厚生労働省による改革の骨子は保険医療制度下での医療費の圧縮を強く求める内容となっています。その骨子は生活習慣病特にメタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満+高血圧、糖尿病、高脂血症の重なり合い)を中心にその予防

対策を強化し、将来の医療費の出をしっかりと押さえ込んでいこうというものです。そしてこれのもう一方では、高齢者などの患者負担を応分なものとすることでの「出の抑制」となっています。



以上に加えて更なる医療費圧縮の追加策としては、通院などの際にかかる医療費のうち、一定額までは保険医療の対象外として患者にその負担を願うという、いわゆるフランス方式(保険免責制度)の導入だということです。そこで視点を移すと、このような新しい保険医療のスキームから見えてくるものはセルフメディケーションの必然性というキーワードになります。

このような改革推進の中で、生活者はこのスキームを受け入れることでのデメリットの部分については、発想の転換をもってメリットとすべきであります。そのためには声を大にして、肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の軽症段階でのセルフメディケーションに必要なよく効く大衆薬(スイッチOTCなど)の認可促進を求めていくことではないでしょうか。セルフメディケーション推進協議会は「特別セミナー」と「日本セルフメディケーション学会」の2本の柱をもってこれらの達成に向けて全面的な取り組みを展開して行きたいと考えています。

松本南海雄副会長：「SMACの将来についての提案」

SMACでは生活者のセルフメディケーションの実践を支援することを活動の目的に掲げております。そのためにドラッグストアの多くは、ただ大衆薬や健康食品を販売するだけでなく、顧客の情報を管理し、体質に合う医薬品などを処方するとともに、健康食品やサプリメントなどを提案、病気予防につなげていくことをめざしております。

私が考えておりますのは、主にA分類医薬品の拡大であ

ります。SMACのプロジェクトにも「セルフメディケーションのためのスイッチOTC薬の必要性」を提案する活動があります。これは、我々小売業がカウンセリングしながら販売するクソリを増やすことにより、大きく医療費の削減につながります。つまり、薬剤師が常駐するドラッグストアとして、大衆薬でも効き目のよい医薬品の品揃え強化。また、調剤にあたっては低価格のジェネリック薬を揃えて専門性を打ち出すことが大切だと思います。このことには、業界団体はじめすべてのの方々に賛同していただけたらと思っております。

『お客様に信頼される、地域に密着したかかりつけの薬局(お店)』がセルフメディケーションを推進するためにもドラッグストア全体が専門性の向上活動を展開していかなければなりません。このことが最終的に社会貢献になると信じております。

工藤義房副会長：「SMAC新年挨拶」

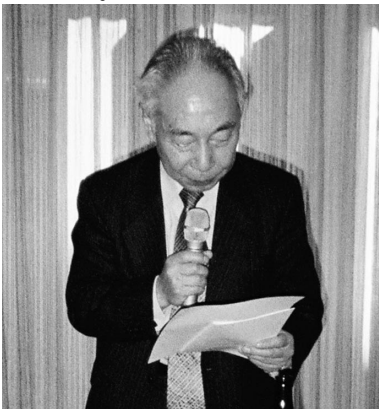
昨年10月に開催された、第4回日本セルフメディケーション学会では、年学会長を務めさせて頂きました。多くの皆様方のご支援、ご協力のお陰で次年度への足がかりとなる成果が得られたことを、大変うれしく思っております。

日本大衆薬工業協会がまとめた報告書によると、セルフメディケーションという言葉は普及したが、内容を詳しく知っていた人は8%にも届きません。SMACは科学された情報を国民に向け発信し、セルフメディケーション推進運動を一層強化する必要があります。

最近規制緩和推進の流れの中で、「自己責任」という言葉が都合よく使われ、一人歩きしております。自己責任は、国民の権利が保障されて成り立つものであります。

医薬品を中心としたセルフメディケーションでの、「自己責任」を言うならば、「適切な医薬品を選ぶ権利」「必要な医薬品情報を入手できる権利」「疑問があればいつでも自由に尋ねることができる権利」などを国民、消費者に保障することが前提であります。

国民にこれらの権利を保障するためには、自分の健康を自分で守る術を子供のときから教え、専門家がセルフメディケーションをサポートする体制を確立しなければなりません。SMACを構成する多くの分野の専門家が夫々の立場から、より一層国民をサポートする事業を展開する必要があります。



日本薬剤師会は来年度の事業計画の柱の一つとして、国民のセルフメディケーションとの関わりを強化することを掲げております。既に昨年示した新薬剤師行動計画に一般用医薬品販売への取り組みの強化を盛り込み、

今年に入って基準薬局の認定基準を改正し、さらには年度内に「薬剤師のための一般用医薬品の販売手引き」を発行する準備を進めるなど、新しい医薬品販売制度に向けて体制整備に着手しています。来年度は大衆薬協との連携を密にして、スイッチOTC化を図るなど、リスクによる分類での類医薬品の拡大に努め、セルフメディケーションにおける国民の選択肢を広げたいと考えています。

安田俊道会長補佐：「SMACの将来についての提案」

SMACがNPO法人に認定されて本年は5年目、いよいよ真価が発揮される年に入りました。即ち、助走期間から、浮上して大空に羽ばたく飛躍の年にしなければならない1年です。

幸い5年間のSMACの収支は、NPO法人の性格上厳しい財政ではありましたが、飛躍の基盤は磐石になり、政策面の充実と事業展開に期待する所までに至りました。

かかる中、これまで財政的に支えて頂いた賛助会員及び一般会員には、さらにご理解とご協力を仰がなければなりません。SMAC会員一人一人がセルフメディケーション推進への行動に目を向けての結束が、大変急務となりました。

以上のことから、平成19年度は2大事業である学会及び特別セミナーの充実化を図るのは勿論のこと、広く一般会員の増加を図らなければなりません。

少子高齢化時代推移の中、約600万から700万人とも云われる「団魂の世代」の目を向け、医療機関に携わった人達には積極的にセルフメディケーション推進運動の良き理解者として呼びかけたい！

一般会員の増加策としては、

医療機関に携わっている「団魂の人達」に、第二の人生に於いて、SMACボランティア活動仲間づくりを広く呼びかける。(パンフレット作成)

一般会員を含めての、年1回の総会を開催する。

(会費制の開催)

特定地域でのSMAC大衆運動の実現化。

運営会員及び理事の推薦条件には、会員増加が出来ることも考慮。

古田榮敬理事：「今後のSMAC活動に向けて」

今後のSMAC活動の充実に向けて、第一にSMAC自体の予算、すなわち事業を計画立案し、実行するに際しての財源が非常に脆弱。これを打破するためにどのような具体的な方策があるかを検討すべきであると考えます。言い換えれば、理事の一人一人が今、何をすべきかについて真剣に考える必要があります。第二に、一方では財源確保の厳しい社会環境を勘案して、SMACと他の事業主体との合併とか、学会活動への思い切った絞込み等のドラスティックな方策の検討が必要かもしれません。第三に、SMACの活動を継続するには、国民、言い換えれば各地域住民、老若男女の理解が得られ、かつ判りやすく親しみやすい「セルフメディケーション推進協議会」にすべきです。そのためには、名称変更等も視野に入れては如何でしょうか。名は体を現すと云いますので。

福田千晶理事：「SMACというネーミング」

セルフメディケーション推進協議会、この名称を見て専門職種の皆さんを含めて「敷居が高い」感じとか、推進ということはPRを強要されるのではという「胡散臭さ」さえ感じてしまう人は多いのではないだろうか？ 会員を増やし、より活動を広めるにはまずイメージづくりが大切である。そのイメージアップのため、ネーミングを再検討すべき時期に来ていると考えられる。さらに、健康情報が氾濫している現代では「SMACの情報が最も信頼できる」と言われるようになることが望まれる。SMACは、さまざまな分野の大御所が集まり、幅広い知識の宝庫である。このメリットを活かし、正しい情報を多くの手段で生活者に伝え、生活者が知識に基づき健康的な暮らしを目指せること、より好ましい選択がなされること・・・それがSMACの目指すもの。今年は一歩一歩進んでいけそうな気配があり、楽しみである。

和田高士理事：「正しい健康情報の橋渡し」

健康情報は玉石混合、国民は混乱というより犠牲になっている。ここで言うまでもないが、納豆による肥満改善が、公共のテレビ番組、しかも長寿かつ視聴率の高い番組で放映されれば、それを信じる人が多数出てもしかたない。セルフメディケーションは自分の健康は自分で守ることが原則である。それゆえに、危うい点は、誤った情報にだまされても自己責任としてとらざる得ないことにある。

セルフメディケーション協議会の使命は、科学的根拠に基づいた推奨されることを的確に伝えることにあると考える。科学的根拠とは表1に基づく。その結果を統合して推奨のグレード(強さ)が表2のように決定される。

表1 Oxford EBMセンター・エビデンスレベル(2001)

| レベル | 内容 |
|-----|---|
| a | 均質なランダム化比較試験の系統的レビュー |
| b | 信頼区間の狭い1個のランダム化比較試験 |
| c | すべてが - なし |
| a | 均質なコホート研究による系統的レビュー |
| b | 1個のコホート研究 |
| c | アウトカム研究 |
| | 均質な症例対照研究による系統的レビューあるいは1個の症例対照試験 |
| | 症例集積研究と質の低いコホート研究や症例対照研究 明白な批判的吟味のない、あるいは実験室の研究、根本原理に基づく専門家の意見 |

表2 推奨のグレード(強さ)

| | |
|-------|-------------------|
| グレードA | 行うよう強く勧められる |
| グレードB | 行うよう勧められる |
| グレードC | 行うよう勧められるだけの根拠がない |
| グレードD | 行わないように勧められる |

きわめて一般的な病気に頭痛がある。このたび、日本頭痛学会は頭痛治療について、表2について明記した「慢性頭

痛診療ガイドライン(2006年、医学書院)を発刊した。市民が薬店で購入できる頭痛薬についても、たとえばアセトアミノフェンはグレードBであると表記している。またサプリメントにも言及している。セルフメディケーション協議会が最初から推奨レベルを策定することは不可能であるが、このように学会が策定した情報を市民に提供する橋渡しは可能であり、これも本協議会の役割ではないかと考える。

大嶋耐之理事：「SMAC活動推進について」

SMACが発足して5年が経過し、常任理事会を中心とした委員会各位のご尽力の賜物で、活動支援の基盤整備は十分に整ったものと考えられる。しかし、一方では一般会員数の伸び悩み、一般市民への活動不足、資金不足が現実化しているようなところも見受けられる。この現状を打破する上で提案したいのがセルフメディケーション認定機構である。各学会認定 機関、師など、その認定に権威付けさえすれば、当然取得機関が他との差別化になるばかりでなく、会員メリットとなる。また、NPO法人であるSMACは、利害関係のない第三者評価機関として捉えられ、ひいては一般市民への啓発活動にもつながるものと考えられる。すなわち、セルフメディケーションという大きな輪の中で、各組織と連携を図りながら、薬局・薬店だけでなく、他の機関・職種の活動についても認定できる機構として、新たな事業を展開することが今後必要ではないかと思う。

菅野隆理事：「SMACが働き掛けるべき活動・事業に関する私見」

SMACの存在意義は、「国民の健康増進のために、薬、サプリメントを如何に正しく、かつ効果的に役立てるかの国民啓蒙と情報・方法の普及」にあると考えます。そのための私的「具体的方法論」を、以下に述べさせていただきます。

まずは、大手製薬会社、大手薬局チェーン、大手健康(機能性)食品製造販売会社が協賛いただける、事業活動の策定 確実に効果のあるエビデンスに基づく、症例別服薬、サプリメント処方マニュアルの作成、ネットでの情報提供。さらには、それらの組織間の橋渡しとしての、包括した「とりまとめ」のポジショニングの確立。

「SMAC」の存在をPRし、社会的認知度を高める マスコミとの提携、活用。

国民的意識啓蒙を目的とする、「イベント」、「キャンペーン」の実施。

服薬・サプリメントに付随した、運動・栄養の相乗的健康増進情報の提供 ネット、リーフレット(チラシ)、小冊子、マニュアル、教材の制作、および頒布。

森 陽 学会担当理事：「セルフメディケーション学会の発展に向けて」

フォーラムから学会へと名称が変わったが、主な活動は年会開催であり、内容もプロジェクトの成果報告、複数の特別講演、パネルディスカッションさらにポスター発表とほぼ定着してきた。経費も当初は本部からの補助金で賄



れたが、回を重ねるごとに歴代実行委員会の努力による経費節減と広告収入増により本部への負担も非常に減少した。今後は会員、非会員問わず参加者を増やしていかなければならない。1月の懇親会の席上で複数の理事から協議会の名称ではこれ以上

個人会員を増やすことは難しいのではないかと発言があった。私もこの意見には賛成である。この会は専門の学会と違ってNPOであるので、すぐ役立つ特徴あるテーマを取り上げることが大切である、この学会の関連する分野が医学、薬学、栄養、運動など広い分野に及ぶからといっていつも総花的テーマを掲げて開催するのは参加者を集めるのは難しい。ポスター発表についても同様である。地方

で開催する場合は参加者が同じ場所に宿泊して行う年会も一案かもしれない。

もし現在の個人会員がすべて学会会員になり、さらに各分野の現役メンバーの協力により会員数が増えていくなれば、学会の開催は年1回ではなく、分野部会を作る事も可能になる。個人会員が学会に移行すると協議会の構成は団体や企業が中心となるので、現行の運営企画会議方式も理解されやすい。一方、学会の方は会員の中から、分野を考慮して学会運営委員（あるいは幹事）を選び、自主的に運営していけば会員の参加意識も高まるであろう。

今後も協議会はセミナーの開催やプロジェクト委員会による審議、各種事業などが主な活動となる。プロジェクトの成果も会報で要約を発表するのではなく会員が利用できるような小冊子などの形で公表し、テーマによっては関係省庁へ提言できればSMAC本来の目的に適用と思われる。ホームページに「論壇」など論議の場を設けたらもっと活性化されるのではないだろうか。いづれにせよ協議会と学会の役割分担については十分に議論する必要がある。

● 第5回日本セルフメディケーション学会(計画案) ●●●●●

*会期：平成19年10月13日(土)、14日(日)

*会場：日本大学薬学部(千葉県船橋市)

第5回学会では、地域医療におけるセルフメディケーションを推進するに当たり、初期医療を担う薬剤師及び登録販売者はどうあるべきか、その理想像を考えると共に、ヘルス・プロモーションに関連する人々の役割を見つめ直したいと考えています。

まずシンポジウムでは、「地域の初期医療で信頼される薬剤師」と「糖尿病におけるセルフメディケーションをどう支援するか」をテーマに考えています。特に後者では、究極のセルフメディケーションと思われる自ら注射を使用する

わけで、これを如何に支援していくかを討論します。

次にプロジェクト報告は、グループにより差が激しいように感じられ、また十分検討がなされて新しく報告書が提出されたものについて発表して頂ければと考えています。

特別講演(公開講座)については、実行委員会が満足してからの企画となります。

また学会における一般発表件数は順調に伸びておりますが、今回は千葉県内の薬学部の先生方に実行委員会に入ってもらいますので、件数を更に増加させたいと考えています。

(安川実行委員長)

事務局便り

早いもので新しい年がスタートして2ヶ月が経過しました。

セルフメディケーション推進協議会は本年も益々充実したプログラムで活動して参ります。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

セルフメディケーション・ネットをご存知ですか? 会報のバックナンバーを始め、健康情報満載のセルフメディケーション推進協議会のホームページです。こちらも合わせてぜひご覧ください。

<http://www.self-medication.ne.jp>

発行：特定非営利活動法人(NPO法人)セルフメディケーション推進協議会

事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル8階

(株)創新社内 Tel.03-5521-0890 Fax.03-5521-2883

<http://www.self-medication.ne.jp> E-mail:smac@self-medication.ne.jp